

終了

## リメンバーin岡崎

2014年1月19日、岡崎げんき館にて、「リメンバーin岡崎」を行いました。

普段は名古屋市で行っている「わかちあい」ですが、名古屋市までは遠いという方も多くおられると思います。他の地域でもということが始まった「リメンバー名古屋in岡崎」は、今回で4回目となりました。

今後の地域での自死遺族のサポートのために、自死遺族の相談窓口をされている岡崎市職員の方にもお手伝いいただきました。もちろん、「わかちあい」の輪は、遺族の方とリメンバー名古屋のスタッフのみで行っています。

まだ「自死の遺族会」の存在をご存知ない方、遺族会の開催されている場所までは遠いという方も多くおられ、このような機会に、さまざまな地域の方に少しでも存在を知っていただき、ご参加いただければと思います。

**2月4日・火曜日** いのちに向き合う宗教者の会 主催

## 自死遺族と宗教者による分ち合いの会『いっぷく処』が開催されます

さまざまな宗派の僧侶の方が集った「いのちに向き合う宗教者の会」という会があり、自死遺族のための「自死者追悼法要」、「いっぷく処」等をされています。

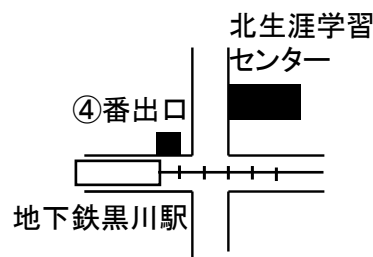
今回、「いっぷく処」ということで、以下のように自死遺族と宗教者による分ち合いの会が開催されます。平日の昼間ということで、そちらの方がご都合がいい方もおられるかと思えます。よろしければご参加ください。詳しくは以下のホームページをご覧ください。また、「いのちに向き合う宗教者の会」にお問い合わせください。

日時： 2014年2月4日（火）14時から  
場所：真宗大谷派名古屋別院（東別院）対面所  
・ 地下鉄名城線「東別院」下車  
ホームページ：<http://inochi.in/>  
Eメール：[info@inochi.in](mailto:info@inochi.in)

## 次回の遺族会

第62回

2月2日(日)13:15から  
名古屋北生涯学習センター  
地下鉄名城線「黒川」下車  
(4番出口)よりすぐ  
参加費:500円



その次は・・・

第63回 4月の日曜日  
※2月初旬に日程が決まります。

日程は、ホームページまたは、電話案内でご確認いただけます。  
パソコンの方

<http://will.obi.ne.jp/remember/>  
携帯電話の方

<http://www.will.obi.ne.jp/m/>  
電話案内(録音でのご案内)  
090-8544-9408

## 第19回「春の遠足」を予定しています

春秋の恒例となりました遠足を、4月の日曜日に予定しています。

リメンバー名古屋の遺族会に参加されたことのある方であれば、どなたでもご参加いただけます。

次号の新聞、4月の遺族会で詳細はお伝えできるかと思えます。よろしければ、ご参加いただければと思います。

## 連載①「はぐれた羊」

羊のミケ

憂いは芸術を呼ぶ。

それが私の信念だ。

私は8歳の時に父を自死で亡くし、15年間そのことを誰にも言えず過ごした。つつがなく過ごしてきた日常の中に歪みがあることは薄々感じていた。だが、それは明日を楽しみに寝れば忘れられるものだった。学校に行き、制服に身を包まれて皆と同じように勉強をし、部活動に行く。青春は私を羊にさせた。

その後、私は人生二度目のとても大きな挫折を味わう。ルールから外れた人生を歩むことを余儀なくされた時、私は初めて自らが群れた羊であったことを知った。横を見ては友人と同じように振る舞い、できる限り普通っぽくそれっぽく努めてきた。自らの歪みに見て見ぬフリをしてきた。

ルールから外れ、自らの歪みにはっきりと気付いた私は学生時代のように戻れなくなっていた。

群れからはぐれた羊はさまようしかない。元の群れにはもう戻れない。私は狼にはなれない。一人でも生きていける強さや気高さなど持ち合わせていない。日々感じる生きづらさやごろごろ転がるストレッサーに捕食されないよう、温もりを探し回る羊だ。

ルールから外れた私を哀れな目で見た彼らに

は私の気持ちはおおよそわからない。

だからこそ、教えてやる。

群れからはぐれた羊の辛さを、苦痛を、憤りを、悔しさを。

そして、見せてやる。群れた羊には到底生み出せない憂いの中に潜む美しさを。

歪みや憂いはマイナスな面ばかりではない。その中にある真理こそが人間らしさであり、本物の美だ。

イレギュラーな家庭に生まれ、平坦ではない人生を歩むことによって芽生えた「マジョリティに対する劣等感」は私を芸術に走らせる。

私たち、はぐれた羊の苦悩は美しいものだ。歪みは高尚なものだ。

私たちの挫折は排他的に捉えられるものではない。

そのことを証明すべく、私は芸術に走る。

べつとりと貼り付いた劣等感を剥がすには世間から、また、世間を気にする自分から認められるしかない。

誰からも、はぐれた事はもう笑わせない。

それが自死遺族としての私の答えだ。

憂いは芸術を呼ぶ。

それが私の信念だ。

はぐれた羊はどこまででも行ける。

## リメンバー名古屋10周年記念冊子

## 「自死遺族のあの日・自死遺族のその後(仮題)」の発行について

2003年12月に第一回の分かち合いを開いたリメンバー名古屋は、昨年12月で10年の節目を迎えました。そこで、これまで会に関わっていただいた皆様の思いを集めた、冊子制作を行うことにしております。これまで、原稿をお寄せいただいたみなさまありがとうございます。

1月末を期限として、追加募集を行っていましたが、もし現在お書きいただいている方がおられましたらお知らせください。また、より多くの方の思いを集めたものにしたいこともあり、来年度事業として繰り越すことも検討しております。その際はまた紙面にてお知らせいたします。

## 新聞郵送をご希望の方へ

1月～6月末までのお申し込み(前期)…1000円 もしくは 80円切手13枚  
7月～12月末までのお申し込み(後期)…500円 もしくは 80円切手7枚  
お申込みは、郵便番号・住所・氏名を記入の上ご送金いただくか、切手をご郵送ください。遺族会の当日、受付でお支払いいただいても結構です。

## スタッフ募集

遺族会に参加したことがある方で、会の活動のお手伝いをいただける方募集しています。  
詳しくはお問い合わせください。

## 11月の遺族向けセミナーを振り返って

寄稿

Kと申します。

11月の講演ではキリスト教を取り上げるということで、身近な人を自死で亡くしたクリスチャンとして座談会に登壇させていただきました。

今回の講演、そして自分自身に起きたこと・体験したことを通して、改めて色んな思いが頭をよぎりました。

まず世の中でよく言われている「キリスト教では自死を禁じている」「自死した人の魂は天国へ行けない」といった内容について、今回の講演で改めて、それらが誤っている、ただの「都市伝説」であることを思いました。キリスト教という「形」ができて数百年経った頃、信仰が広まるにつれて、信仰のため、名誉のためなら命を投げ打っても構わないという風潮が現れ始めたローマ帝国で、ついにこれが「国教」とされる際（実際には4世紀のコンスタンティヌスというローマ皇帝が、キリスト教を武器にして帝国を拡大しようと考へて取り込んでしまった）信仰や名誉の為の死でも「人口が減るから」という理由で

「禁止」されて、そのことだけが千数百年経った現在まで一人歩きしているものと理解しました。

ここで少し、キリスト教がどんなものか触れてみたいと思います。

まずキリスト教では、全ての人は赦されると説きます。

何を赦されるかという、人は全て生まれながらに神の性質とそぐわないものを持っており（つまり「的外れ」＝「罪」）でもそれは神が哀れみ（＝恵み）によってこの世に遣わされたキリストを信じることによって、神の性質を受け継ぐ者とされ赦されると教えます。

キリスト教では聖書という書物を信仰の礎としています。

旧約聖書と呼ばれる部分には、神による天地創造、イスラエル民族が捕らわれたエジプトから約束の地へ至った道のり、そして神か遣わされた預言者（＝神の言葉・意思を民衆に伝える人）を結局は受け容れず、（→次頁へ続く）

## 電話相談のご案内

自死遺族に限らない、幅広い窓口です。

○あいちこころほっとライン365

愛知県精神保健福祉センター

毎日 9:00～16:30 052-951-2881

○名古屋市こころの健康電話相談

名古屋市精神保健福祉センターこころぼ

月-金 12:45～16:45 052-483-2215

## 法的なことでお困りの場合は

## 自死遺族支援弁護団

全国自死遺族法律相談ホットライン

※全国の弁護士が直接対応

電話：050-3786-1980

毎週水曜日 12:00-15:00（祝日を除く）

Eメール：info@jishiizoku-law.org

ホームページ：http://www.jishiizoku-

law.org FAX：06-6949-8217

## 面接相談のご案内(無料)

○愛知県精神保健福祉センター

要予約 052-962-5377 毎月第3木曜日 午後2時-3時30分

○名古屋市精神保健福祉センターこころぼ

要予約 052-483-2095 毎月第3火曜日 午前10時-12時



## 日本司法支援センター「法テラス」

「法テラス」は国が設立した公的な法人です。

法テラス愛知

050-3383-5460

法テラス三河

050-3383-5465

※平日9:00-16:00

## 次回「ディアレスト」のご案内

家族ではないけれども大切な人を自死で亡くされた方を対象に、2ヶ月に1回、遺族会「ディアレスト (Dearest)」が開催されています。

日時：2014年3月15日（土）13:30-16:00

場所：名古屋市中村生涯学習センター

地下鉄東山線「本陣」駅4番出口より徒歩5分  
対象：家族以外の人（恋人・婚約者・パートナー・親友・同僚・上司・部下・先輩・後輩・先生・生徒、など）を自死（自殺）で亡くされた方

参加費：500円

連絡先：the.dearest1@gmail.com

http://dearest.heya.jp

(←前頁より)

ことごとく否定し迫害してしまった歴史と、それでも預言者を待ち望む姿が描かれています。新約聖書と呼ばれる部分には、神の子(=真の預言者)であるキリストがこの世に生まれ、しかしやはり既存の勢力からは否定され十字架刑に処されるものの、復活し、今も生きていること、それを信じる恵みはイスラエル人(=ユダヤ人)だけでなく全世界の人々に開かれていることが書かれています。

聖書は人の手を通して記述されてはいますが、その根底にあるのは神の働きであるため、神によって書かれたものとして捉えます。

一見様々な解釈ができそうに見えるところがありますが、翻訳しきれなかったり、イスラエルの当時の風習が前提となっている部分があるため、理解し難いところは確かにあります。

むしろ、書かれている言葉を通して、神は一体何を伝えようとしているか理解を深めていくのが、正しい読み方だと思います。

私の理解では、信仰の礎となる聖書に、特に自死を否定したり、良くないものと決めつけるような記述は見あたりませんでした。

私自身のことを書いてみます。8年前、ずっと心配していた友人が自死という形で亡くなってしまったとき、神が一体どんな計画を持っているのか理解できませんでした。彼女の死を結局止めることができなくて、もしこれも神の計画だとしたら、あんまりだと思いました。

もちろん神を恨みました。

そんな中で、人の生き死に(それ以外の森羅万象も含めて)は絶対的な権力である神の支配下にあること、しかし私たちには自分のことを決める自由(死さえも)が与えられていること、全ての魂は神によって作られ、その一つ一つに神は目を留めておられること、魂は肉体が減んでもずっと滅びず生き続けること、これらを信じられたことにより、ずいぶん救われました。不思議と今でも、彼女の存在がずっと在る気がしています。

新約聖書の最後にある黙示録に、ついにこの世界が減んで神の国がやってくる時の状況が描かれています。もはや夜も、死さえも無いその世界で、彼女に再会できる日を希望を持って待ち望むことができます。

最後に、亡くなった友人が好きだった聖書の箇所を紹介します。

絶えず祈りなさい。

すべての事について、感謝しなさい。

これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。

『新約聖書 テサロニケ人への手紙 5章17～18節』

皆様の心に、平安があるよう祈っています。

## リメンバー

先日、13年半住んだ家を片付け、別の場所に移りました。13年半前、その家での新しい生活を始めた時、一緒に始めるはずだった相手は失われたのでした。その時以来、その家は始まることなくあり続け、そのまま終わらせることになったのでした。

服、本、櫛に残る髪、使いかけの鉛筆、捨てたゴミ。13年半の間、そのまま置いておいたものばかりです。あるものは目をつむって捨て、あるものは知り合いに送り、それでも、捨てられない、捨ててはいけないものは、段ボール箱に詰めて封印しました。小さい頃の写真、日記……2箱に収めたものは、亡くなった者の人生そのものです。ひとりの人生をたった2箱に収めてしまうことへの抑えきれない罪悪感、重さ、むなしさを感じながら、箱をテープで閉じたのでした。

何も物が無くなった家は、そこに引っ越す前に希望を持って眺めた時と同じ姿になりました。がらんとした家の中でひとり座っていると、この13年半の出来事が次々と思い出されてきます。希望の時、死、それからの苦しみ、格闘……。始まらなかった家とともに、自分も終わらせてしまいたい衝動にさえ駆られます。

それでも、立ち上がって、家の中、家の窓から見える風景を、ひとつひとつ写真に収めました。住み始める前と似てはいても、その光景は何一つ同じではありません。13年半の思いは、たった数枚の写真などに入りきるわけではなく、こぼれ落ちる思いは、もうその家に置いて行くしかないのでしょう。蓋をするかのように両手で玄関の扉を閉め、家を後にしたのでした。(KN)